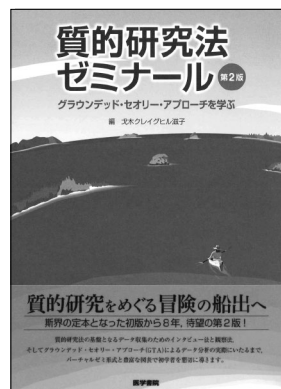


『質的研究法ゼミナール グラウンデッド・セオリー・アプローチを学ぶ(第2版)』

活きた講義の息吹が 感じられる研究法テキスト

編：戈木クレイグヒル滋子／定価：2,730 円(本体 2,600 円＋税 5%)
発行：医学書院／TEL：03-3817-5657



ほぼ30年の月日を費やし、質的研究は日本の看護領域において当たり前の存在となりました。当たり前とは、「当然」「そうあるべき」「ありふれていること」ですが、ここに至るまでの道のりは、今なお第一線で活躍している看護研究者たちの貢献なくしては語れません。

本書の著者である戈木クレイグヒル滋子先生も、その多大なる貢献者のお一人です。グラウンデッド・セオリー・アプローチの開発者である米国カリフォルニア大学のアンセルム・ストラウス(Anselm Strauss)先生から直々に学び、ご自身の博士論文を完成させ、その後20年にわたり日本で後継者育成に携わりながら、いくつもの質的研究に関する著書を発表されています。

本書は2005年に初版が、そのわずか2年後に「増補版」として、分析過程(プロパティとディメンション)についての加筆がなされたものが発行されました。それから6年を経たこのたびの「第2版」は、質的研究法解説の洗練もさることながら、研究過程全般にわたり研究実践者ならではの助言や示唆にあふれたものとなっています。そこに看護研究者・教育者20年の蓄積と若い研究者への温かな眼差しを感じます。

などと書くと、大変な大家、老成者のように受け取られるかもしれませんが、とんでもない、著者は本書の表紙や挿絵にも描かれている「シーカ

ヤックでの島巡り」がリアルに好きな、好奇心あふれる魅力的なパフォーマーでもあります。

研究法解説書としては異例の構成である本書は、小舟でいくつもの島(各章：これが研究プロセスになっている)を順に巡るバーチャルゼミにたとえられています。そして研究という海原を、著者のコンダクター、ナビゲーターとしての手ほどきを受けながら自らの力で島にたどり着き、また次の島を目指して出発することで、自然とグラウンデッド・セオリー・アプローチが学べる仕組みとなっています。

研究法関連書籍は、必要に迫られたときに、必要な箇所を目次をたどりながら拾い読みするのが常となっていた評者ではありますが、本書を手に取り1ページ目から読み始めてすぐに、書物としての面白さにも引き込まれてしまいました。文章はこなれていて読みやすく、時にウイットに富む比喩もあり、それでいて各章を読み終わるごとに、研究法を改めて学び直せたという満足感ももたしてくる、なんと贅沢な書であります。

ゼミナールという書名から、初学者向けと思われるかもしれませんが、“翻訳ものにはない活きた講義の息吹を感じながら研究法を学ぶ”醍醐味は、むしろ研究歴の長い人々にこそ味わってほしい。読後にそんな思いが浮かんでくる、躍動感あふれる一冊です。